

## 報 告

## 老年看護学実習においてライフストーリーを 聞くことによる学生の学び

吉原 悦子\* 丸山 泰子\* 金子 由里\* 溝部 昌子\*

### <要 旨>

本研究は、老年看護学実習において課せられた課題である「ライフストーリーを高齢者が語る意義、援助者が聞く意義」について学生が記述した記録を分析し、学生の学びを明らかにすることを目的とした。

学生はライフストーリーを聞く中で高齢者の気持ちを推察していた。そして語られた内容が高齢者にとってどんな意味があるのか、高齢者の人生に思いを寄せながら聞いていた。さらに援助者がライフストーリーを聞き、その中で語られるその人の価値観を理解することで、その人にあった援助につながると考えていた。学生は、語られた内容から単に高齢者を理解しようとするだけでなく、その人自身の言葉と言語では表現できないものをキャッチし、その奥にある意味を読み取ろうとしていた。ありのままの高齢者を受け入れることが必要であるという学びを得た。

キーワード：ライフストーリー、意義、学生、学び、老年看護

### I. 緒言

高齢者は加齢や疾病による心身機能の低下に伴い、これまで住み慣れた住まいを離れることや配偶者・友人との死別など環境の変化に直面し大きなストレスを抱えることも多く、その変化に対応することになる。そのため、正木ら<sup>1)</sup>は老年看護では、人間を生涯発達し続ける存在としてとらえ、高齢者の可能性を引き出し、豊かさを支援するために全体論的視点を持ち統一体として高齢者を捉えることが重要としており、高齢者がこれまでの人生の中で培ってきたもの、大事にしてきたものや価値観を理解し、持てる力を活かし豊かな生に向けて支援していくことが求められる。しかし、社会状況や世帯構造の変化に伴い、学生が高齢者と接し、普段の生活の中で高齢者を理解する礎を築くのは難しい状況となっている。

そのため、老年看護の教育の中で高齢者理解を促進する方法を取り入れており、その中でも、これまでの先行研究<sup>2) 3) 4) 5)</sup>にあるように、ライフストーリーを聞き取ることは高齢者理解、老年観の変化、高齢者に対する情意の変化について有効であることや高齢者の

QOL 向上に一定の効果があるとされている。また、加藤ら<sup>4)</sup>は、高齢者の生活史を知ることの意味を単に知識を獲得し、尊敬の念を抱くだけではなく、それを個人の内省に結び付けることでより深い人間的な関わり合いができるようになるための能力を培う機会となりうるとしている。

本学の老年看護学実習は I (2 週間)、II (1 週間) で構成されており、老年看護学実習 II は、実習施設を高齢者施設とし、居住する高齢者を生活者として総合的に理解することを目的としている。そこで高齢者施設実習において、学生の高齢者理解の一助となるように、受け持ち高齢者のライフストーリーを聞き取り、さらに、ライフストーリーを高齢者が語る意義、援助者が聞く意義を考えることを実習課題とした。学生の現状としては、高齢者の育ってきた時代背景の把握も曖昧で、高齢者との会話が意味のあるものとして捉えにくく、単なる雑談と捉えることが多い。そのため、会話の中から高齢者のこれまでの人生で頑張ってきたことや大事にしている価値信念などをくみ取ることが難しい。そこで、この課題によって学生が高齢者のライフストーリーを注意深く聞き取り、単に高齢者の背

\* 西南女学院大学保健福祉学部看護学科

景を知ることだけではなく、高齢者との関係づくりについて自分自身を振り返り、内省につなげることができると考えた。

今回の研究では、学生が「ライフストーリーを高齢者が語る意義、援助者が聞く意義」に関して記述した記録を分析し、解釈することを通して学生の学びを明らかにすることを目的とする。本研究で使用するライフストーリーとは、高齢者個人が歩んできた自分の人生について本人が語るストーリーのこととしている。

## II. 研究方法

### 1. 調査対象

対象は、2018年度に老年看護学実習Ⅱを終了した学生が実習記録として提出した課題のうち、同意の得られた学生の実習記録とする。

### 2. データ収集方法

老年看護学実習Ⅱは3年後期から行われ、高齢者施設の入居者を受け持ち「生活者として総合的に理解する」ことが目標である。学生は、介護老人福祉施設、特定施設入所者生活介護、認知症対応型共同生活介護の3か所に分かれて1週間の実習を行っている。実習の中で高齢者が生きてきた時代背景を鑑みて高齢者との会話を意味あるものとして捉えることができるように、ライフストーリーの聞き取りを課題とし、会話を記録に残すことだけでなく、ライフストーリーを高齢者が語る意義、援助者が聞く意義をそれぞれ記述し、提出した。提出された記録用紙からデータを収集した。

### 3. 分析方法

学生が実習記録に記述した「ライフストーリーを高齢者が語る意義、援助者が聞く意義」の内容を計量テキスト分析(KH Coder (ver.3) 使用)を行った。まず、学生の記述内容をテキスト化し、前処理を実行し、単語やフレーズに分解して形態素解析(言葉で意味のある最小単位に分けて、名詞、動詞、形容詞、副詞、助動詞の品詞判別する分析)を行った。複合語を検出し、整理した。次いで分析に使用する語の取捨選択を行い、頻出語を抽出した。

また単語間の関係や関連性を分析するために、共起ネットワーク図を作成した。その際には、出現頻度の低い語にも着目し、出現頻度を3回以上の単語を対象とした。分析するのに重要ではないと思われた単語を

除き、類義語を統一する作業を行った。これは、上位に現れない重要な単語を見逃さないように、また、複合語など強制抽出を行うためにKWICコンコーダンスの機能を用い、原文を参照しながら設定した。例えば「いる」、「する」などや「Aさん」や「地名」などの固有名詞、発達課題の説明に使用されている語などは除外した。また「自己評価」や「人生の意義」などの複合語は複合語のままでも抽出するようにし設定した。

なお、テキストマイニングにより解析されたデータに基づいた分析結果の妥当性を確保するために共同研究者で検討した。

### 4. 倫理的配慮

研究目的と方法を口頭と文書をもって説明を行った。研究協力は自由意志で成績には関係しないこと、研究に参加しなくても不利益は被らないことを説明した。個人情報保護の厳守、結果の公表について説明し、同意書での同意を確認した。実習の成績評価に影響しないように学生の実習終了後、成績が確定したあとに研究協力の説明を行った。

本研究は、研究者所属大学倫理審査委員会で承認を得た。(承認番号8号)

## III. 結果

分析対象となった学生の記録は102人分(回収率は97.3%)であった。

### 1. ライフストーリーを高齢者が語る意義

#### 1) 頻出語の結果

実習記録の記述内容のうち、「ライフストーリーを高齢者が語る意義」の内容分析では総抽出語数は8933語であった。出現頻度の高い語は、全体で「人生」(132)、「考える」(93)、「自分」(91)、「出来る」(84)、「振り返る」(84)であった。また、頻出回数は多くないが、高齢者の気持ちを表す「悲しい」「懐かしい」「寂しい」などの単語も抽出された。

表1 ライフストーリーを高齢者が語る意義について3回以上の頻出単語

頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数
人生	132	受け止める	11	受容	5	効果	3
考える	93	知る	11	進行	5	症状	3
自分	91	得る	11	価値観	5	情動	3
出来る	84	辛い	11	自己評価	5	心境	3
振り返る	84	低下	10	心理的	5	世代	3
思い出す	44	表現	10	人生の統合	5	想い	3
思い出	43	心の中	10	認知機能	5	年月	3
話す	42	人生の意義	10	頑張る	5	未来	3
繋がる	40	高める	10	起こる	5	要素	3
語る	38	思う	10	教える	5	影響	3
楽しい	31	伝える	10	高まる	5	解釈	3
意味	29	アイデンティティ	9	慈しむ	5	解放	3
記憶	28	楽しみ	9	送る	5	確認	3
体験	27	活性化	9	働く	5	希望	3
自身	25	残る	9	歩む	5	参加	3
ライフレビュー	25	多い	9	与える	5	充実	3
生きる	25	自信	8	落ち着く	5	存在	3
出来事	24	軽減	8	懐かしい	5	達成	3
整理	23	向上	8	意欲	4	納得	3
気持ち	22	自覚	8	感情	4	変化	3
話	22	可能性	8	現状	4	可能	3
大切	20	再確認	8	笑顔	4	幸せ	3
自分自身	19	持つ	8	役割	4	大変	3
価値	18	忘れる	8	維持	4	客観的	3
経験	18	喜び	7	回復	4	孤独感	3
認知症	18	自己	7	強化	4	自己統合	3
過ごす	18	相手	7	後悔	4	生きがい	3
感じる	18	理解	7	刺激	4	積極的	3
良い	16	冷静	7	失敗	4	異なる	3
時代	15	肯定的	7	促進	4	覚える	3
他者	15	強い	7	特別	4	経る	3
気付く	15	悲しい	7	自己肯定感	4	見直す	3
聞く	15	会話	6	発達課題	4	向き合う	3
機会	14	共感	6	発達段階	4	残す	3
回想	14	苦労	6	満足感	4	思い出せる	3
行う	14	安定	6	様々な	4	思える	3
コミュニケーション	13	重要	6	繰り返す	4	図る	3
生活	13	不安	6	生まれる	4	遅らせる	3
再評価	13	懐かしむ	6	変わる	4	保つ	3
言葉	11	捉える	6	若い	4	悪い	3
期待	11	深い	6	1つ	3	寂しい	3
高齢者	11	環境	5	プライド	3	少ない	3
再発見	11	思い	5	印象	3	明るい	3
自我の統合	11	活動	5	気分	3		
見出す	11	実感	5	強み	3		

## 2) 記述内容からの学生の学び

記述内容にある単語の共起性について共起ネットワーク図を作成した。共起ネットワークは強い共起関係ほど太い線、破線は弱い関係を示す。出現数の多い単語ほど大きい円で描写され、円同士の距離は意味を持たない。

単語のネットワークは22のまとまりになっている。以下、太字ゴシック体は抽出された単語である。

学生は、ライフストーリーを高齢者が語る意義とし

て、自分の人生・気持ちを人に話し、語ることで思い出し、振り返り、考えていると捉えていた。その中で高齢者は、**大変**だった人生、**頑張**った人生や**思い出**について学生に話すことを**楽しい**と感じ、話す中で自分の**人生**に**納得**していたのではないかとしている。さらに高齢者が語った出来事は**年月**が経っており、現在は**心境**や**環境**が変わっていることから**見方**が**変化**しているのではないかと考えていた。

高齢者がライフストーリーを語ることは**特別**かつ**重**

要で大切な出来事を懐かしんだり、慈しむ機会となっており、これまでの人生での出来事や体験を語ることで価値や意味を自覚したり気づいたり、見出したり、整理することになり、人生の再評価や自我の統合が期待できる。また、自らの言葉で表現することで、心の中が解放され、整理されることで冷静に受け止められるようになったのではないかと推測していた。

特に、他者と会話することが寂しさや不安の軽減につながっており、理解・共感してもらえることで活動・参加のきっかけになっている。さらに参加への意欲が増すことで、自己評価が高まったり、過去を回想することで喜びを得たり、満足な気分になるのではないかとしていた。

また、高齢者は、認知機能が低下している中でも失敗や後悔、現状を受け止め、役割を思い出し、自身の存在を認める強さを持っていた。過ごした時代で苦労したこと、幸せだったこの思いを知ってもらいたい、

伝えたいと感じていたのではないか。そのことが発達課題の達成につながると考えていた。

高齢者がライフストーリーを自ら語ることは、感情の安定を促進し、心理的安定によってアイデンティティの強化につながる。認知症の進行を遅らせる、孤独感や不安を減少させ記憶を維持し、意欲を向上させることができ、語ることで先の未来のことやこれからの生き方について影響を与えるのではないかと考えていた。

## 2. ライフストーリーを援助者が聞く意義

### 1) 頻出語の結果

実習記録の記述内容のうち、「ライフストーリーを援助者が聞く意義」の内容分析では総抽出語数は7360語であった。出現頻度の高い語は、全体で「知る」(114)、「人生」(72)、「聞く」(53)、「大切」(50)、「価値観」(43)であった。

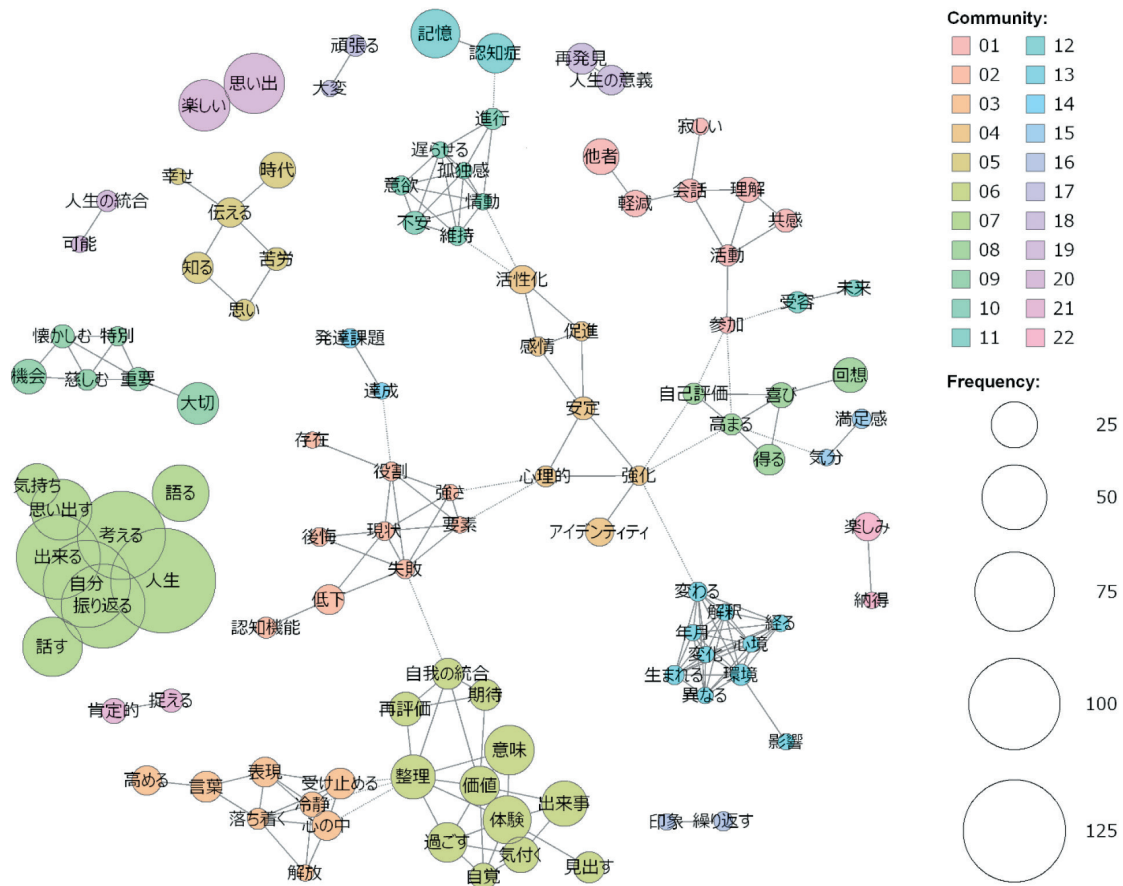


図1 ライフストーリーを高齢者が語る意義の共起ネットワーク図



表2 ライフストーリーを援助者が聞く意義について3回以上の頻出単語

頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数	頻出語	出現回数
知る	114	家族	9	会話	5	感情	3
人生	69	生き方	9	配慮	5	機会	3
聞く	53	信頼関係	9	好き	5	空間	3
大切	50	持つ	9	大事	5	考え	3
価値観	43	ニーズ	8	見つける	5	自尊心	3
生活	41	重要	8	合わせる	5	未来	3
理解	33	生活史	8	伝える	5	礼儀	3
生きる	24	生活背景	8	メッセージ	4	歴史	3
援助	23	違う	8	患者	4	一緒	3
繋がる	18	見出す	8	言葉	4	影響	3
コミュニケーション	15	築く	8	状況	4	介入	3
経験	15	環境	7	他者	4	活動	3
把握	15	個性	7	関係	4	構築	3
関わる	15	考え方	7	希望	4	帰宅願望	3
時代	14	支援	7	行動	4	人生の先輩	3
思い出	13	尊重	7	受容	4	生活歴	3
体験	13	強み	7	想像	4	接し方	3
個別性	13	合う	7	促進	4	認知症	3
時代背景	13	深い	7	低下	4	楽しむ	3
関わり	12	出来事	6	生きがい	4	作る	3
思い	12	看護	6	教える	4	思い出す	3
ケア	11	工夫	6	繋げる	4	受け入れる	3
傾聴	11	人生観	6	生まれる	4	触れる	3
関わり方	11	活かす	6	抱く	4	辿る	3
意味	10	振り返る	6	楽しい	4	掴む	3
必要	10	捉える	6	良い	4	培う	3
過ごす	10	気持ち	5	ヒント	3	変わる	3
語る	10	尊厳	5	印象	3	望む	3
						強い	3
						寂しい	3

## 2) 記述内容からの学生の学び

記述内容にある単語の共起性について共起ネットワーク図を作成した。共起ネットワークは強い共起関係ほど太い線、破線は弱い関係を示す。出現数の多い単語ほど大きい円で描写され、円同士の距離は意味を持たない。

単語のネットワークは16のまとまりになっている。以下、太字ゴシック体は抽出された単語である。

援助者の聞く意義として、もっとも頻出する語でのつながりでは、高齢者自身が大切にしている人生、生活における価値観を聞くことで、生きてきた時代や時代背景を理解し把握できることであった。高齢者の辿ってきた人生を傾聴することが重要で、そのことによって他者との関わりが楽しくて好きという思いを抱いていることやその人の持つ希望や考え方を見出すことができる捉えていた。

高齢者は強い帰宅願望や寂しさを感じながら日々過ごしている中で、少しでも会話やゲームなどの活動を楽しめるような機会を作ることや、印象強い思い出を語ることの意味付けを学生と一緒に行動することで感情の

安定を図ることができ、学生自身も認知症高齢者への接し方も変わってくると学んでいた。また、思い出や今の環境を知ることによりよく過ごすことを目指した、生活歴に合った援助ができると考えていた。

その他には、個別性のある関わりや看護、高齢者を尊重した関わりが可能となることや信頼関係を築くこと、関わり方の工夫ができる、人生の先輩として尊厳を持った関わりができる、大事にしてきた生き方や自尊心、言葉の裏にあるものに配慮した関わり、高齢者が伝えたいメッセージをくみ取ることができるなど援助者にとって高齢者との関わり方に影響する内容が捉えられていた。

学生は、高齢者の話を聞くことで過ごしてきた時代の違いや身体・認知機能の低下について教えてもらっていた。さらにこれまでの経験、体験、強みが今の生活にどう影響を与えているのか、高齢者の生きがいを深く知ること、語りの持つ意味を考え、培ってきたありのままの高齢者を受け入れることが高齢者理解につながると考えていた。



るもので、語り手である高齢者は、自分が体験した過去を語る。聞き手の学生は、認知力が低下している高齢者も多く、時系列に語られたわけではない内容を、時代背景を考慮し、語られる楽しかったこと、つらかったこと、印象に残ったことなどの情景を思い浮かべて、その高齢者の気持ちをくみ取る。正木らは<sup>1)</sup>、高齢者と関わり合いながら（相互作用しながら）対象を理解しようと努力することが対象理解の不足やゆがみを解消するとしており、ライフストーリーの聞き取りが繰り返し行われることによって、高齢者の持つ強みやケアの方向性を学生は見出して援助につなげていた。

高齢者は語ることで人生の出来事の価値や意味を自覚し、学生は語りの持つ意味を考えていた。やまだ<sup>7)</sup>は、ライフストーリーは語り手と聞き手の共同行為であるとしており、このライフストーリーの聞き取りは高齢者と学生の相互作用を意識するものとなっていた。高齢者がライフストーリーを自ら語ることは、感情の安定を促進し、心理的安定をもたらすことやアイデンティティの強化につながる。そして、認知症の進行を遅らせ、意欲を向上させることができると学生は捉えており、ライフストーリーを語ることで高齢者のこれからの生き方にプラスの影響を与えるのではないかと考えていた。

原<sup>8)</sup>は、どのような状況において、誰がどのような聞き方をしているかによって語られる内容や語られ方が異なるとしており、聞き手がそのこと意識し、どのように相槌を打つのか、どのような姿勢で聞くのかといった、聞き手の姿勢がこのライフストーリーの聞き取りでは非常に重要である。学生は高齢者の語りを学生自身の価値観で語りの内容を判断しておらず、これまで培ってきたありのままの高齢者を受け入れることが必要という意義を捉えていたことは大きな学びであったといえる。

今回の実習では、ライフストーリーを高齢者が語る意義と援助者が聞く意義を課題として課されていること、実習中、高齢者とのコミュニケーションの時間確保が可能であることから、ライフストーリーを聞き取りその意義について考えることができた。ライフストーリーを高齢者が語る意義と援助者が聞く意義としての学生の学びは、高齢者を理解し、それを援助に生かすことができることだとしている。しかし、高田ら<sup>9)</sup>は学生が相手の言動を価値づけている自己の価値観や思考、感情を意識的に振り返る場面を設けることで自己理解が深まり高齢者観を豊かにする教育効果を生み出すとしており、振り返りの重要性を示唆している。

今後は、高齢者が語る意義と援助者が聞く意義についてディスカッションをし、さらに学びを深め、実践へとつなげていくことが必要であり、課題である。原<sup>8)</sup>は、老年看護の現場において高齢者が語る人生の歴史を聞くための時間や空間は十分に確保されているとはいいがたいとしている。実習中の学生の高齢者理解を促進するといった目標は、実習内の単発な目標ではなく、これから老年看護の一翼を担うものとして高齢者の望む人生に向けた援助を目指すためにも必要な学びであり、今回的高齢者が語る意義と援助者が聞く意義における学びは一定の学びがあったといえる。

## V. 結論

高齢者が語る意義と援助者が聞く意義における学生の学びでは以下のような内容が明らかになった。

頻出単語からは、「楽しい」や「辛い」など高齢者の気持ちを推察する単語が出現しており、語られた内容の意味を考え、非言語的な表現もキャッチし、高齢者の人生に思いを寄せていた。また、「振り返る」や「経験」といった過去の出来事を語ることで高齢者が語る意義につながっていると捉えていた。さらに「関わり」や「ケア」など高齢者との関わりを意識していた。

学生は、高齢者のライフストーリーを聞く中で、語られた内容から言葉を越えたメッセージを読み取ろうとしており、高齢者の持つ強みやケアの方向性を学生は見出して援助につなげることを考察していた。

学生は高齢者の語りを学生自身の価値観で語りの内容を判断するのではなく、これまで培ってきたありのままの高齢者を受け入れることが必要であると意義を捉えており、大きな学びであった。

今後課題として、高齢者が語る意義と援助者が聞く意義についてディスカッションをし、さらに学びを深め、実践へとつなげていくことが必要である。

## 引用文献

- 1) 正木治恵, 真田弘美: 老年看護学概論. 改訂第3版. pp.73-78, 南江堂. 東京, 2020
- 2) 小泉美沙子, 伊藤真由美, 宮本美佐: 老年看護学の対象理解にライフヒストリー・インタビューを取り入れた学習効果. 老年看護学. 5(1):140-146, 2000
- 3) 尾崎章子, 齊藤美香, 東海林志保: 老年看護学教育にラ

- イフヒストリー・インタビューを取り入れた学習効果．東北  
大医保健学科紀要．25(1):39-45, 2016
- 4) 加藤和子, 窪内敏子, 福田裕一ら: 高齢者を理解するために生活史を用いた教育に関する検討．日本赤十字豊田看護大学紀要．13(1):131-137, 2018
  - 5) 山崎久美子, 林千晶: 高齢者のクオリティ・オブ・ライフに及ぼすライフレビュー法の効果研究．日本保健医療行動科学会年報．25:185-195, 2010
  - 6) 小木曾加奈子, 安藤邑恵: 看護学生における高齢者理解ーライフヒストリーのインタビューを基にした内容分析ー．教育医学．55(3):283-292, 2010
  - 7) やまだようこ: 老年期にライフストーリーを語る意味．老年看護学．12(2):10-15, 2008
  - 8) 原祥子: “いま、ここ” で生きる高齢者を理解する方法に関する一考察ーライフストーリーを読み解く視点からー．日本看護研究学会雑誌．27 (5) :83-92, 2004
  - 9) 高田由美, 佐藤美恵子, 小野麻由子, 尾岸恵三子: 高齢者理解における学生の学びの視点に関する研究．日本赤十字秋田看護大学紀要・日本赤十字秋田短期大学紀要．19:1-8, 2014



## Student Learning of Listening to Life Stories During Geriatric Nursing Practice

Etsuko Yoshihara \*, Yasuko Maruyama \*, Yuri Kaneko \*, Akiko Mizobe \*

### <Abstract>

This study analyzed student accounts of “the significance of older adults telling their life stories and of their caregivers listening,” which was a task assigned during geriatric nursing practice with the aim of understanding student learning. The students inferred the feelings of the elderly by listening to the life story. The students listened to the older adults story and reflected on their lives and what it meant to the older adults. Furthermore, the caregivers listening to their stories was significant because it led to more appropriate care for each individual engendered through an understanding their values which were discussed when telling these stories. The students endeavored to not only understand the older adults based on these stories but also determine the nuances that the older adults could not express through words or language and ascertain the deeper significance thereof. Accordingly, the students learned that it is important to accept the older adults as they are..

Keywords: life stories, significance, students, learn, geriatric nursing

---

\* Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University

